

入院保証書の極度額(上限額) 50万円の設定について

2020年4月1日より民法改正が施行されることに伴い、当館では2020年4月1日以降に入院をされる患者さんにつきましては、入院保証書の連帯保証人の極度額(上限額)を50万円と設定させていただくこととなりましたのでお知らせいたします。なお、法務省からの保証に関する民法改正案内のパンフレットより一部抜粋したものを以下のとおり載せておりますのでご参照ください。

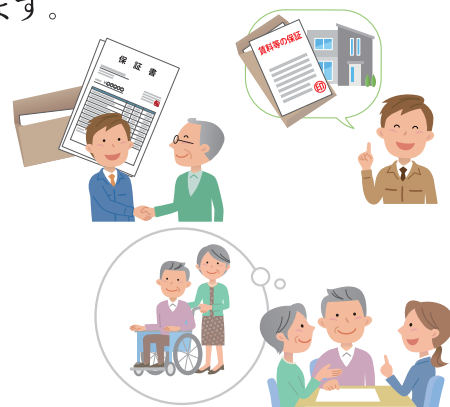
2020年4月1日から保証に関する 民法のルールが大きく変わります

極度額(上限額)の定めのない個人の根保証契約について

「根保証契約」とは、一定の範囲に属する不特定の債務について保証する契約をいいます。例えば、保証人となる時点では、現実にはどれだけの債務が発生するのかがはっきりしないなど、どれだけの金額の債務を保証するのかが分からないケースをいいます。

例えば、次のようなケースが根保証契約に該当することがあります。

- ① 子どもがアパートを賃借する際に、その賃料などを大家との間で親がまとめて保証するケース
- ② 会社の社長が、会社の取引先との間で、その会社が取引先に対して負担する全ての債務をまとめて保証するケース
- ③ 親を介護施設に入居させる際に、その入居費用や施設内での事故による賠償金などを介護施設との間で子どもがまとめて保証するケース



根保証契約を締結して保証人となる際には、主債務の金額が分からないため、将来、保証人が想定外の債務を負うことになりかねません。そこで、次のようなルールが設けられています。

※ なお、主債務に貸金等債務(金銭の貸渡しや手形の割引を受けることによって負担する債務)が含まれる根保証契約については、既に、2005年4月1日から、今回のルールよりも更に厳しいルールが設けられています。このルールは、今回の民法改正の後も変わりません。

● 極度額(上限額)の定めのない個人の根保証契約は無効 ●

個人(会社などの法人は含まれません)が保証人になる根保証契約については、保証人が支払の責任を負う金額の上限となる「極度額」を定めなければ、保証契約は無効となります。この極度額は書面等により当事者間の合意で定める必要があります。極度額は、「〇〇円」などと明瞭に定めなければなりません。

保証人は極度額の範囲で支払の責任を負うことになるので、保証をする際には、極度額に注意を払いましょう。

また、極度額を定めないで根保証契約を締結してしまうと、その契約は無効となり、保証人に対して支払を求めることができないことになるので、債権者にとっても注意が必要です。

